

動物愛護に関するアンケート調査結果

1 調査の概要

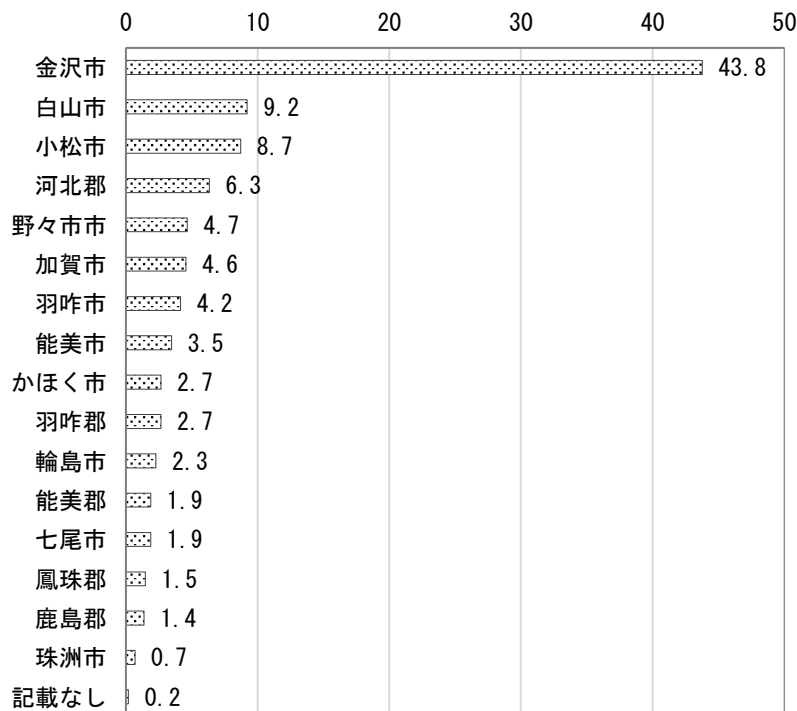
- (1) **調査目的**：動物愛護管理行政の推進のため平成 26 年 3 月に策定した「いしかわ動物愛護管理推進計画」の見直しにあたり、県民の意見を反映するため調査を実施しました。
- (2) **実施主体**：石川県
- (3) **調査時期**：令和 2 年 7 月 20 日から 9 月 14 日まで
- (4) **調査対象**：県政モニター・インターネットモニター、事業所、福祉施設、学校、保育所等の従事者、公民館利用者など 1,230 人
- (5) **調査方法**：①県政モニターにアンケート用紙を郵送し、回答を郵送により回収
②県政インターネットモニターによる回答
③事業所、各種団体等に調査を依頼し、アンケート用紙の配布、回収
- (6) **回答数**：1,010 人(回答率 82.1%)

2 調査結果

(1) 回答者の属性

① 居住地

居住地は、「金沢市」442 人(43.8%)、「白山市」93 人(9.2%)、「小松市」88 人(8.7%)の順となっています。

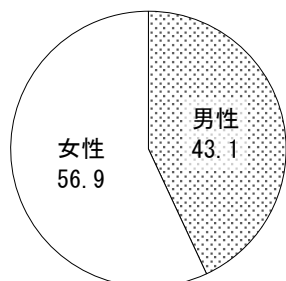


回答者の居住地 (%) (回答者 1,010人)

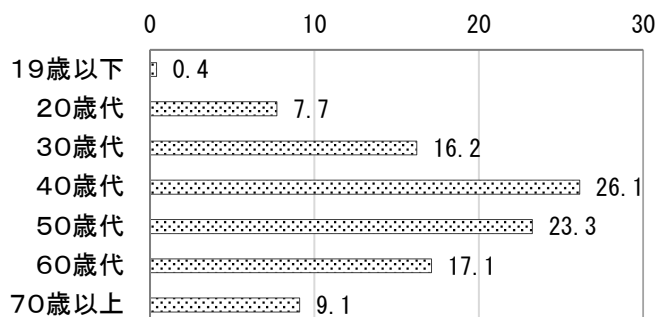
② 性別と年齢

性別は、「男性」43.1%(435人)、「女性」56.9%(575人)となっています。

年齢は、「40歳代」26.1%(264人)、「50歳代」23.3%(235人)、「60歳代」17.1%(173人)の順となっています。



回答者の性別割合 (%) (回答者 1,010人)



回答者の年齢割合 (%) (回答者 1,010人)

③ 世帯構成とペットの飼育の有無について

飼育率は、「三世代世帯(親と子と孫)」で42.7%と最も高くなっています。

世帯構成	飼っている(人)	飼っていない(人)	飼育率(%)
一人世帯	11	84	11.6
一世代世帯(夫婦・パートナーのみ)	55	171	24.3
二世帯世帯(親と子)	170	380	30.9
三世代世帯(親と子と孫)	56	75	42.7
その他	2	2	50.0
計	294	712	29.2

④ 居住形態とペットの飼育の有無について

飼育率は、「一戸建て」で32.0%、「集合住宅(アパート、マンション等)」で13.2%となっています。

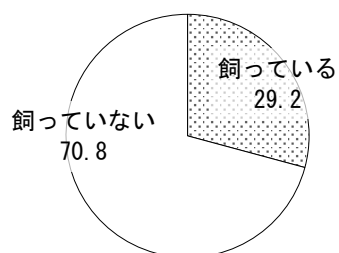
世帯構成	飼っている(人)	飼っていない(人)	飼育率(%)
一戸建て	274	581	32.0
集合住宅(アパート、マンション等)	20	131	13.2
計	294	712	29.2

⑤ ペットの飼育の有無とペットの種類について

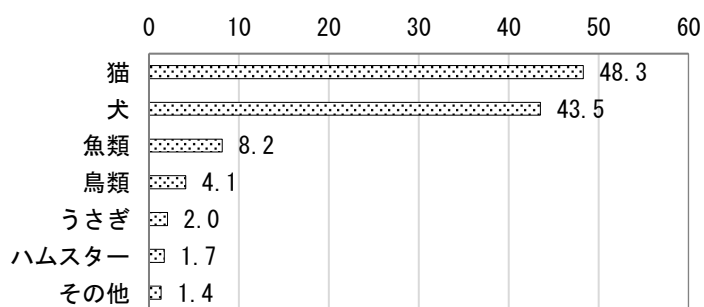
ペットの飼育状況は、「飼っている」29.2%(294人)、「飼っていない」70.8%(713人)となっています。

ペットを「飼っている」と答えた人に、どんな動物か聞いたところ、「猫」48.3%(142人)、「犬」43.5%(128人)、「魚類」8.2%(24人)の順となっています。

前回調査時より、飼っている動物の割合は「犬」と「猫」で逆転しているほか、「魚類」「は虫類」を飼っている割合が大幅に減少しています。

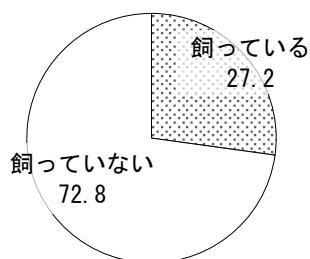


ペットの飼育割合 (%)
(回答者 1,007人)

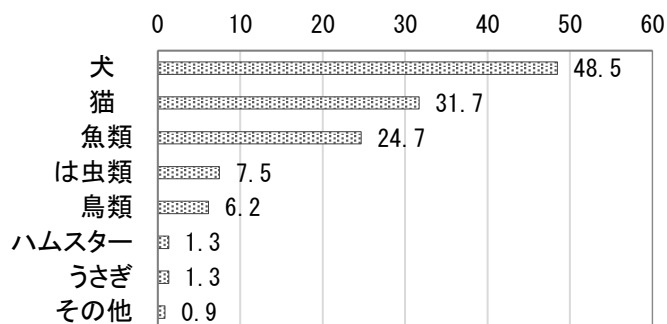


飼っている動物の種類 (%) (回答者 294人、複数選択)

参考：前回調査(H26.1)

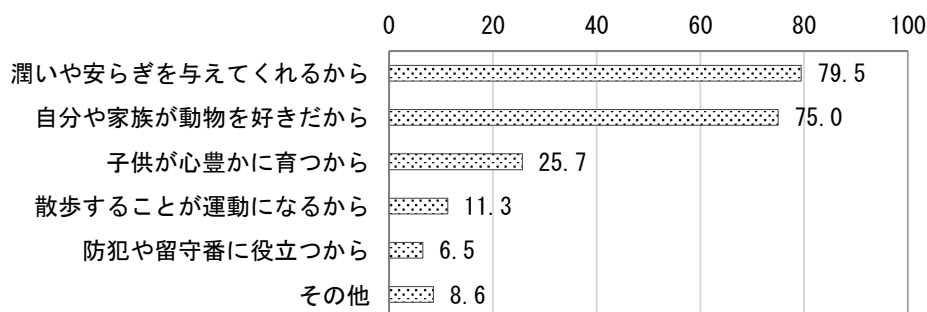


(回答者 835人)



(回答者 227人、複数選択)

また、ペットを飼育している理由を聞いたところ、「潤いや安らぎを与えてくれるから」79.5%(232人)、「自分や家族が動物を好きだから」75.0%(219人)、「子供が心豊かに育つから」25.7%(75人)の順となっています。

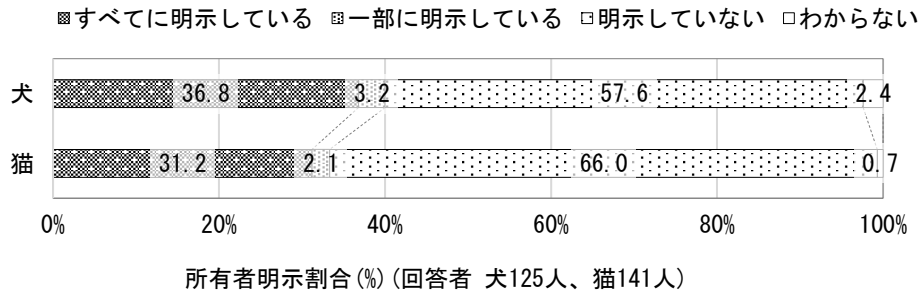


ペットの飼育理由 (%) (回答者 292人、複数選択)

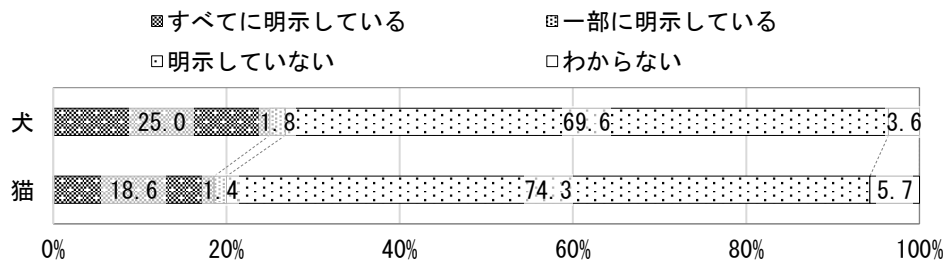
(2) 犬・猫の飼育状況について

① 所有者明示について

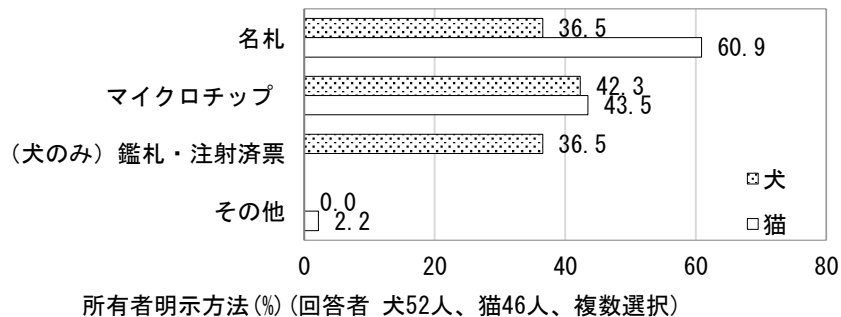
犬(猫)を飼っている人に、所有者(飼い主)の明示状況を聞いたところ、犬では「明示していない」57.6% (72人)、「すべてに明示している」36.8% (46人)の順となっています。猫では「明示していない」66.0% (93人)、「すべてに明示している」31.2% (44人)の順となっており、犬と同様の順となっています。



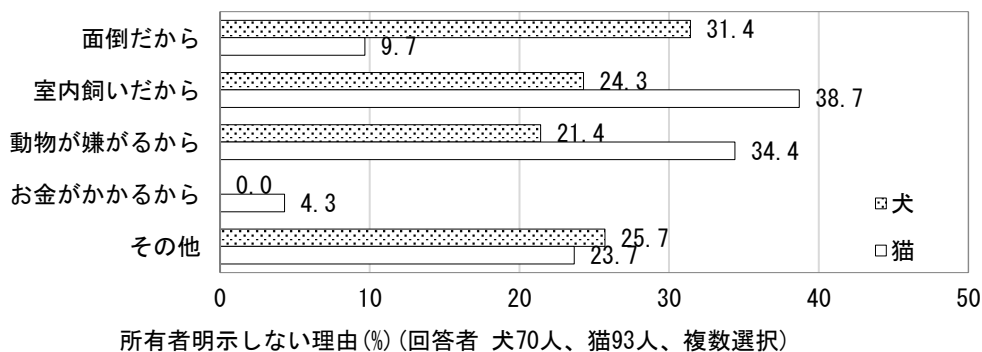
参考：前回調査(H26.1) (回答者 犬112人、猫70人)



「すべての犬(猫)に明示している」又は「一部の犬(猫)には明示している」と答えた人に、どのような方法で所有者(飼い主)を明示しているか聞いたところ、犬では「マイクロチップ」42.3% (22人)、「名札」「鑑札・注射済票」共に36.5% (19人)の順となっています。猫では「名札」60.9% (28人)、「マイクロチップ」43.5% (20人)の順となっています。



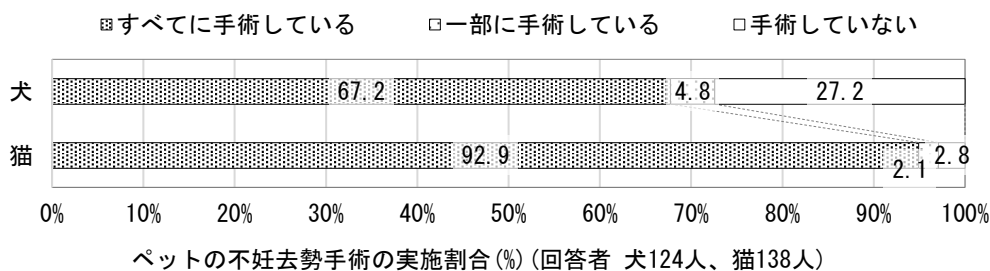
「一部の犬(猫)には明示している」又は「明示していない」と答えた人に、所有者明示をしていない理由を聞いたところ、犬では「面倒だから」31.4% (22人)、「室内飼いだから」24.3% (17人)の順となっています。猫では「室内飼いだから」38.7% (36人)、「動物が嫌がるから」34.4% (32人)の順となっています。



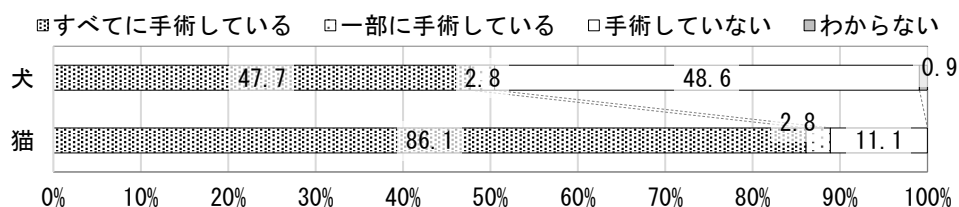
② 不妊去勢手術について

犬(猫)を飼っている人に、動物の不妊去勢手術の実施状況について聞いたところ、犬では「すべてに手術している」67.2% (84人)、「手術していない」27.2% (34人)の順となっています。猫では「すべてに手術している」92.9% (131人)、「手術していない」2.8% (4人)の順となっており、犬と同様の順となっています。

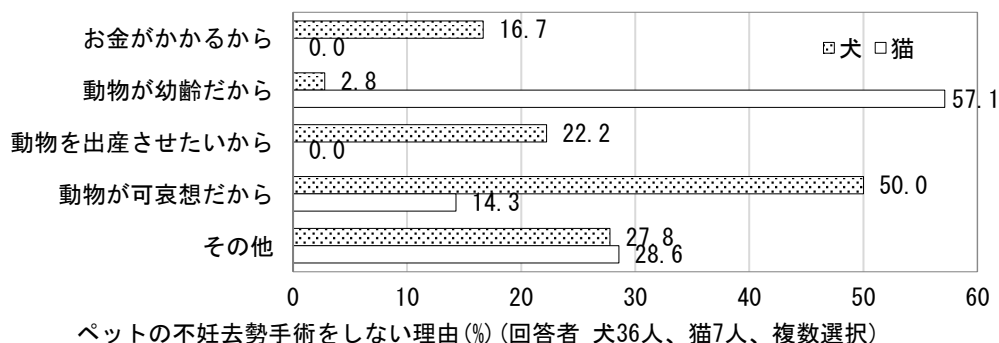
前回調査時より、不妊去勢手術の実施割合(すべて及び一部に手術している人の割合の合計)が大きく増加しています。



参考：前回調査(H26.1) (回答者 犬109人、猫72人)



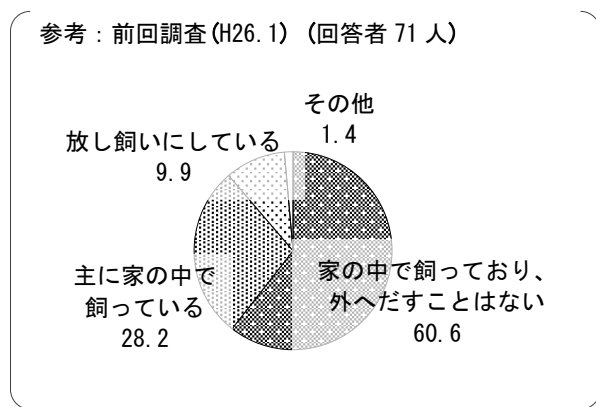
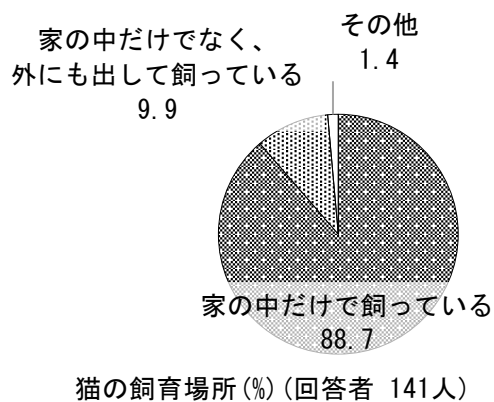
「一部の犬(猫)には手術している」又は「手術していない」と答えた人に、犬(猫)の不妊去勢手術の実施をしていない理由を聞いたところ、犬では「可哀想だから」50.0% (18人)、「出産させたいから」22.2% (8人)の順となっています。猫では「幼齢だから」57.1% (4人)、「可哀想だから」14.3% (1人)の順となっています。



③ 猫の飼育場所について

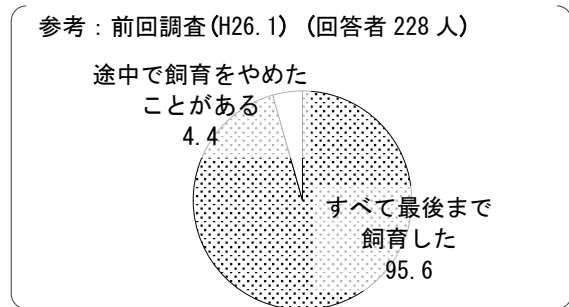
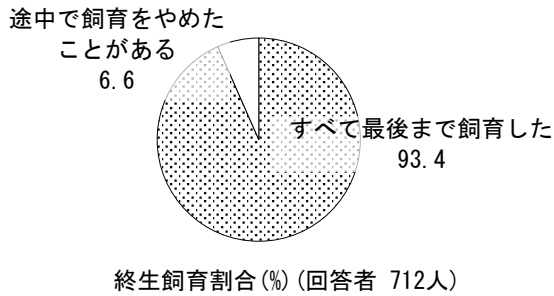
飼っている猫について、飼育場所はどこであるかを聞いたところ、「家の中だけで飼っている」88.7% (125人)、「家の中だけでなく、外にも出して飼っている」9.9% (14人)となっています。

前回調査時より、屋内のみで飼育している割合が大幅に増加しています。



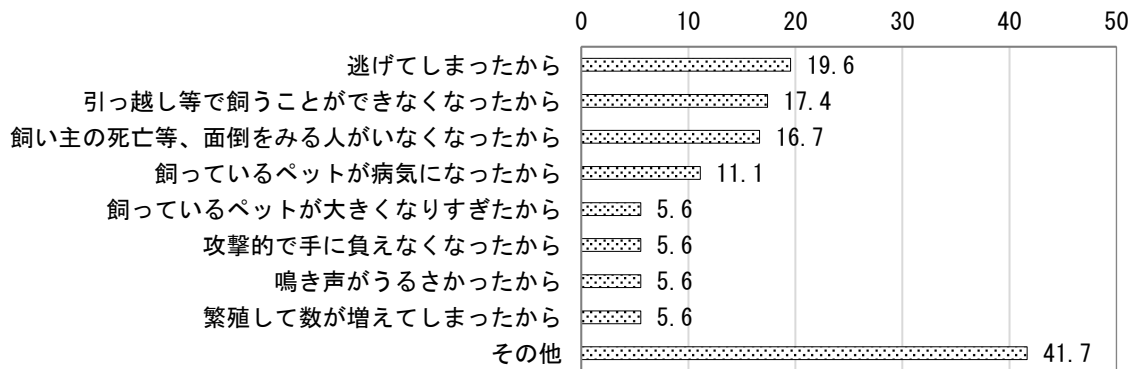
(3) 終生飼育について

これまでに飼ったペットについて、その一生を終えるまで飼育したかを聞いたところ、「すべて最後まで飼育した」93.4% (665人)、「途中で飼育をやめたことがある」6.6% (47人)となっています。

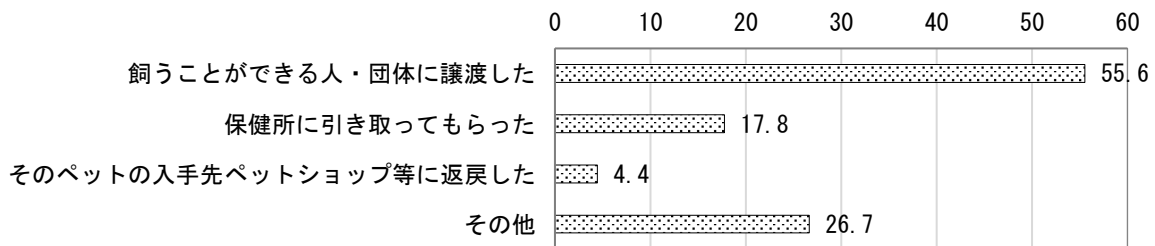


「途中で飼育をやめたことがある」と答えた人に、飼育を途中でやめた理由を聞いたところ、「逃げてしまったから」19.6% (9人)、「引っ越し等で飼うことができなくなったから」17.4% (8人)の順となっています。

また、飼育を途中でやめたペットはどうしたかを聞いたところ、「飼うことができる人・団体に譲渡した」55.6% (25人)、「保健所に引き取ってもらった」17.8% (8人)の順となっています。



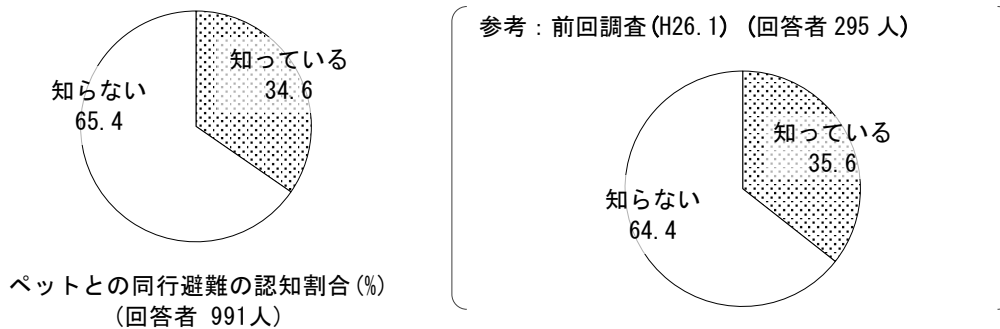
終生飼育をやめた理由 (%) (回答者 46人、複数選択)



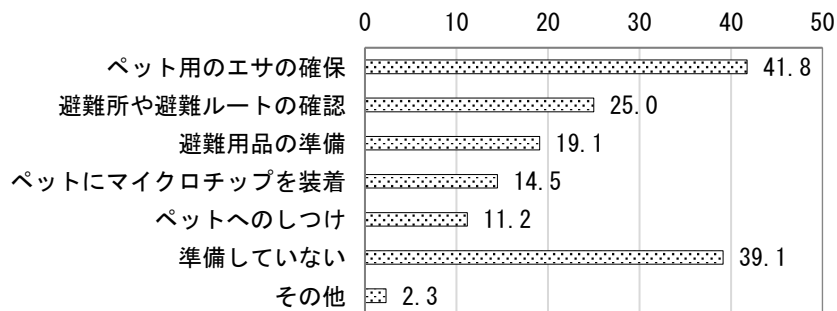
終生飼育をやめた動物はどうしたか (%) (回答者 45人)

(4) ペットの災害対策について

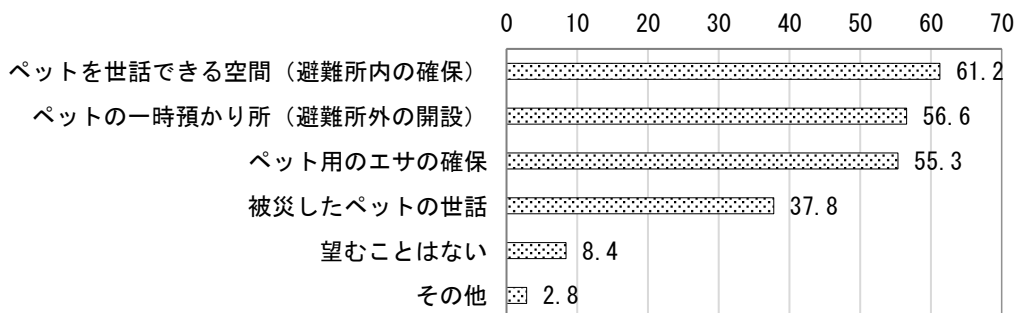
災害時は、ペットとの同行避難が原則とされていることを知っているかを聞いたところ、「知っている」34.6% (343人)、「知らない」65.4% (648人)となっています。



ペットを飼っている人に、災害時に備えてどのような準備をしているかを聞いたところ、「ペット用のエサの確保」41.8% (127人)、「準備していない」39.1% (119人)、「避難所や避難ルートの確認」25.0% (76人)の順となっています。

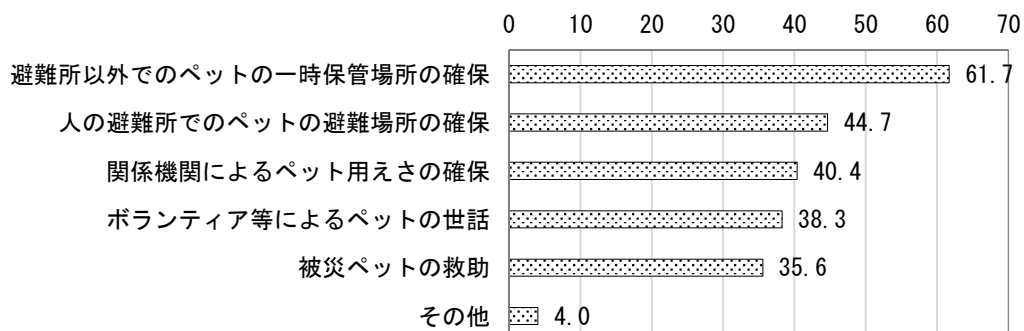


災害時にペットに関して望むことを聞いたところ、「ペットを世話できる空間(避難所内の確保)」61.2% (561人)、「ペットの一時預かり所(避難所外の開設)」56.6% (518人)、「ペット用のエサの確保」55.3% (507人)の順となっています。



災害時にペットに関して望むことの割合 (%) (回答者 916人、複数選択)

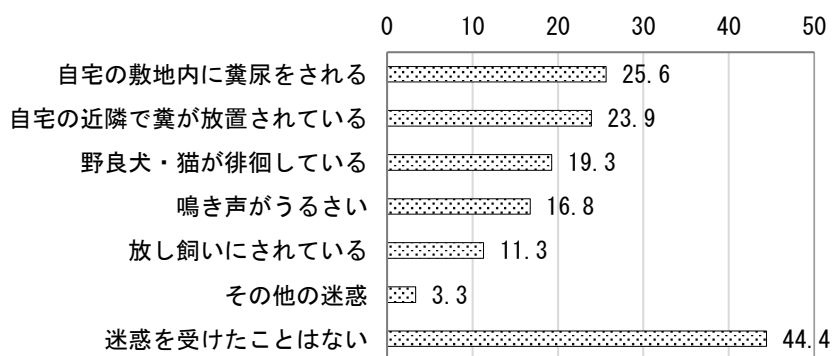
参考：前回調査(H26.1) (回答者 815人、複数選択)



(5) 犬・猫による迷惑について

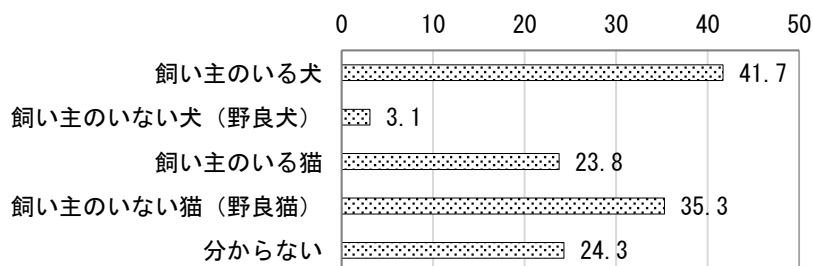
① 犬・猫による迷惑

直近3年以内で、犬・猫による迷惑を受けたことがあるかを聞いたところ、「迷惑を受けたことはない」44.4% (440人)、「自宅の敷地内に糞尿をされる」25.6% (254人)、「自宅の近隣で糞が放置されている」23.9% (237人)の順となっています。



犬・猫による迷惑の割合 (%) (回答者 991人、複数選択)

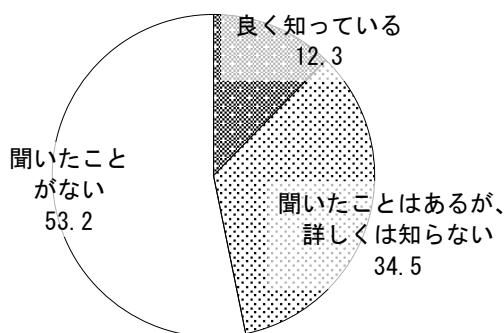
「犬・猫による迷惑を受けたことがある」と答えた人に、その迷惑の原因となった犬・猫を聞いたところ、「飼い主のいる犬」41.7% (228人)、「飼い主のいない猫(野良猫)」35.3% (193人)の順となっています。



迷惑を受けた原因の動物の割合 (%) (回答者 547人、複数選択)

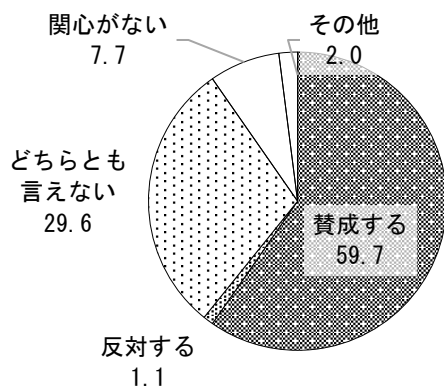
② 地域猫活動について

地域猫活動を知っているかを聞いたところ、「聞いたことがない」53.2% (532人)、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」34.5% (345人)の順となっています。



地域猫活動の認知割合 (%) (回答者 1,000人)

地域猫活動についてどう思うかを聞いたところ、「賛成する」59.7% (592人)、「どちらとも言えない」29.6% (293人)、「関心がない」7.7% (76人)の順となっています。

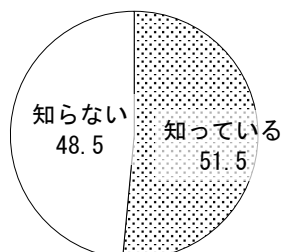


地域猫活動についてどう思うか (%) (回答者 991人)

(6) 県の取組について

① 保護した動物の譲渡事業について

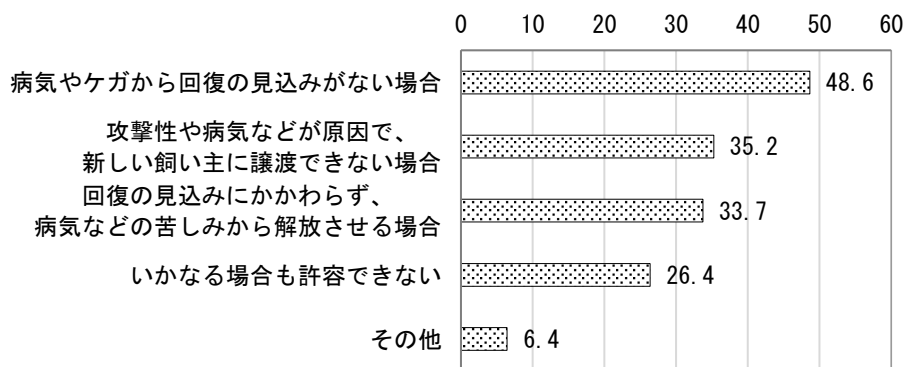
県が、保護した動物の譲渡事業を行っていることを知っているかを聞いたところ、「知っている」51.5% (515人)、「知らない」48.5% (485人)となっています。



動物の譲渡事業の認知割合 (%) (回答者 1,000人)

② ペットの殺処分について

ペットの殺処分は、どのような場合に許容できると考えるかを聞いたところ、「病気やケガから回復の見込みがない場合」48.6% (483人)、「攻撃性や病気などが原因で、新しい飼い主に譲渡できない場合」35.2% (350人)の順となっています。



殺処分が許容できる理由 (%) (回答者 993人、複数選択)

③ 動物の愛護及び管理に関する意見(抜粋)

- ・今飼っている犬にとっても癒されています。動物の管理は飼い主次第だと思います。
- ・県のホームページで里親募集の掲載をよくみます。担当課がホームページを新着更新されているので事業がきめ細やかに行われているんだろうなあと安心して安心します。自分の人生の中でもタイミングが合って縁があれば里親になりたいと思います。
- ・ペットを飼うことは良いとしても、感染症の媒介にならないから不安がある。
- ・現在、自然災害等で避難所等へ避難する時にペット等の取扱いに苦慮しているケースがままあります。万一の避難の際にはペットと一緒に避難できる避難所を、事前に周知徹底することが必要だと思います。
- ・しつけのされていない犬や、マナーの悪い飼い主を見かける、狂犬病の注射の様に、動物を買う際は飼い主のマナー講習も義務化して欲しい。
- ・野良猫、犬を捕まえて、避妊去勢手術をしたいのですが、方法や補助等が知りたい。
- ・人間の身勝手に、動物を飼い、捨てることは許されることではありません。不幸なペットを出さないためにもペットを飼う場合、本当に最期まで責任もってお世話できるか考えて飼う必要があると思います。
- ・私も動物は好きなので今までもたくさんの動物を拾ったり里親としてもらって来ました。愛護団体の方々にはとても尊敬致します。支援が必要だと思います。
- ・殺処分ゼロの石川県になるよう色々イベントや譲渡の機会(告知)を増やしてほしいです！

合計 290 件

- ・主に「飼主責任・マナー」に関すること 78 件
 - ・主に「いのち・殺処分」に関すること 25 件
 - ・主に「行政支援・広報」に関すること 24 件
 - ・主に「動物取扱業者」に関すること 17 件
 - ・主に「野良・地域猫」に関すること 16 件
 - ・主に「迷惑行為」に関すること 14 件
 - ・主に「譲渡」に関すること 12 件
 - ・主に「保護団体」に関すること 5 件
 - ・主に「感染症」に関すること 2 件
- その他 97 件